日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の２　TEL &FAX　52-3097　　2013年９月８日（日）1460号

民報 ゆうばり

放射能を避けるために自主避難！

人との出会いや新たなコミュニティを！

「避難生活を続ける６人がスピーチ 「なぜ、避難しているか知ってほしい」

８月31日、恵庭市黄金ふれあいセンターにおいて「北海道広域避難　これからフォーラム in 恵庭」が開催されました。

避難者・支援者ら約80人が意見交換

このフォーラムは、東日本大震災による被災避難者支援事業（北海道委託事業）として、道広域避難アシスト協議会が主催。道ＮＰＯ被災者支援ネットが協力、恵庭市の後援で、道内各地の震災避難者や支援者ら80人以上が参加し、各地域の現状等について意見を交換しました。

みちのく会・あったかい道で道広域避難アシスト協議会

主催者の「道広域避難アシスト協議会」は、みちのく会（東日本大震災により道内に避難している被災者たちの会で、２０１１年４月に発足し、会員同士の互助、地元市民とのコミュニティの発生、経済的自立、これから北海道へ避難されてくる方たちへ情報提供等、様々な取り組みを行政と連携を取りつつ、官民一体での支援活動）と、あったかい道（被災者支援団体）が共同して実施している協議会です。

当日は、あったかい道の湊源道代表がコーディネーターをつとめ、恵庭市からは原田裕市長も参加。市基地・防災課の嘉屋秀樹主査、福島から恵庭に避難してきた仲澤勉さん、みちのく会の本間紀伊子代表が冒頭にこれまでの経過などを説明し、夕張市在住の髙橋章郎さん他、道内各地の避難者６名が意見を述べました。

恵庭市では職員が定期的に訪問・相談

恵庭市の嘉屋主査は市の支援策を説明し、市職員が避難者住宅を定期的に訪れ、心配事などの相談にのってきたことで「少しでも生活の不安が解消できれば」と述べていました。また、市民団体をはじめ支援の輪が広がったことも強調していました。

市内でステンドグラス工房を営む仲澤さんは、「放射能を避けるために自主避難した。なぜ、避難しているのか知ってほしい」と述べていました。

７月現在で、全道には２８１７人が避難していますが、同じ北海道でも１５００名の避難者がカウントされている札幌と、他の地域では、支援などの状況が違っています。

道内避難者の現状把握を新たな出会いとコミュニティを

最後にみちのく会の本間会長から「行政とともに避難者、支援者、市民ボランティアの方々…垣根を越えて、今の北海道の現状を把握し、これからについて考える場が持てるということ、このような会を開催させていただけることで、人と人との出会いや新たなコミュニティーが生まれること、貴重な収穫がたくさんありました。

広い北海道各地で避難生活（避難移住生活）をされている当事者６名のスピーチも大変深いものでありました。

ネットワークの大切さをテーマとさせていただきましたが、多様化している避難者さんの現状を知り、新たな出会い、つながりができたことは、大変嬉しく思います。」と挨拶。

食べても安心！「チーム☆ＯＫ」

フォーラム後の交流会は、みちのく会の会員チーム☆ＯＫ（食べても安心＝ＯＫ）の皆さん手作りの、美味しいおやつをいただき、お子さんたちも一緒に、あらたな出逢いの皆さんとの情報交換です。

医療問題、仕事の問題、甲状腺検査や学校の問題など、時には涙もありのおしゃべりに、予定時間をオーバーしてのなごやかな交流会となりました。夕張夢再生館事務局のくまがい市議も参加しました。

◆　◆　◆　◆

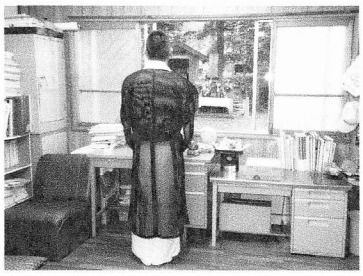
北海道広域避難アシスト協議会主催の東日本大震災による被災・避難者フォーラム予定

▼次回10月26日（土）北見市（北見経済センター1F）でフォーラム

▼その後、３月11日に札幌フォーラムを予定。

第49回無名碑合同法要終る

建交労夕張支部



建交労第49回無名碑合同法要が、８月24日、執り行われました。

折悪しく、開会直前の激しい雨のため急遽事務所内の窓を開けはなし、お経と焼香をしました。

今年も新たに三柱を納骨し、合計三四一名の合祀となりました。

この無名碑は、一九六八年に建交労の前身だった全日自労が仲間を偲び、身寄りのない故人の納骨のために建立したものです。

ここ十数年は、組合員よりも市内の無縁仏の納骨が増え、夕張市の無名の墓としての意味が大きくなっています。

今年は、市の福祉課の方も参列し、焼香していました。

「４人展」市民の目を楽しませる！

ふるさとギャラリー「あずましい」（市役所２階）で、松原攻氏、後川幸子氏、櫻井亮氏、田淵真保氏による絵画の作品展が行われており、市民の目を楽しませています。

作品展は、観覧無料で９月27日まで行われ、４人の個性あふれる作品を鑑賞することができます。

全道母親大会

・とき…2013年９月21日(土)
・ところ…札幌市教育文化会館

《記念講演》

『私が幸福になるために
生まれた憲法』

講師　伊藤　真さん（弁護士）

*「命を生みだす母親は、命を育て、命を守ることをのぞみます」のスローガンのもと、第56回全道母親大会が、今年も上記の日程で開かれます。たくさんの参加で大会を成功させましょう。

日本共産党道国政相談室長　森　つねと「かける記」

「原発事故の避難者に光を！」

福島第一原発が危機的状況です。毎日、最大六〇〇トンもの放射能に汚染された地下水が海へ流出し、汚染水を貯水するタンクからの漏えいも相次いで発覚しています。

目に見えない放射能。その危険は、静かに、しかし確実に私たち国民に迫っているのです。

先日、札幌市厚別区の集合住宅や近隣に住む、原発事故避難者との懇談会に参加しました。日本共産党の神山悦子福島県議が、県外避難者の実態を調査するために開いたもので、真下紀子道議らも参加しました。

張りつめた空気の中、最初に発言したのは、福島県南相馬市から避難した二児の母親です。

事故後、子どもたちはストレスから深い心の傷を負ったといいます。飛び降り自殺をはかろうとしたり、包丁で手首を切ろうとしたり…。母親は必至でこれを食い止めてきました。

「子どもたちを被ばくさせたくない。でも、老後のためだった蓄えも限界です。どうしたらいいか教えてください」

母子避難者が多く、母親自身のストレスも大きい。避難をめぐって家族が離散したケースも少なくありません。

「この団地から一人の自殺者も出したくない」。自ら避難しながら避難者のまとめ役を担う女性の願いです。

一七〇世帯が暮らす厚別の集合住宅は来年度以降の支援が打ち切られようとしています。

国は全ての英知を結集して原発事故の収束と、避難者支援に責任をもつべきです！